

2021年3月期第3四半期
決算説明会
要旨

開催日時：2021年2月9日（火）15：00～16：00

旭化成株式会社

予想・見通しに関する注意事項

当資料に記載されている予想・見通しは、種々の前提に基づくものであり、将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

会社側参加者：

取締役 兼副社長執行役員 柴田
経理部長 佐藤
基盤マテリアル事業本部 企画管理部長 高橋
パフォーマンスプロダクツ事業本部
企画管理部長 桑葉
スペシャルティソリューション事業本部
企画管理部長 杉山
スペシャルティソリューション事業本部
セパレータ事業統括部長 福田
旭化成エレクトロニクス 企画管理部長 川田
旭化成ホームズ 経営管理部長 坂井
旭化成ファーマ 経営統括総部 経営企画部長 木邊
IR室長 濱本

P2 第3四半期実績の概況

柴田 2020年度10-12月（以下、第3四半期）の売上高は5,473億円、営業利益は527億円で、前年同期比で増収・増益となった。下期に入り、自動車関連市場や石化製品市況が回復し、「マテリアル」の営業利益が前年同期並みに回復した。

「住宅」「ヘルスケア」は上期に引き続き堅調だ。特に、「住宅」の不動産部門、「ヘルスケア」のクリティカルケア事業が好調に推移しており、前年同期比で増益となった。

一方2020年度4-12月（以下、第3四半期累計）では、売上高は1兆5,367億円、営業利益は1,295億円で、上期におけるCOVID-19感染拡大の影響が残り、前年同期比で減収・減益となった。

減益の要因は「マテリアル」だが、第1四半期を底に、第2四半期から自動車関連市場等が回復し、業績は順調に改善している。「住宅」「ヘルスケア」はCOVID-19感染拡大の影響を受けているものの、前年同期比で増益となった。

P8 連結損益計算書（4-12月比較）

売上高は1兆5,367億円で、前年同期比で519億円の減収となった。売上総利益は5,007億円で、粗利率は32.6%となりほぼ前年同期並みだ。販管費は3,712億円で、前年同期比で21億円増加し

た。COVID-19感染拡大の影響で旅費交通費等の経費が減少したが、Veloxis Pharmaceuticals Inc.

（以下、Veloxis）の買収に伴うのれん等償却費の増加や、好調な事業における労務費の増加があった。営業利益は1,295億円で、前年同期比で107億円の減益となった。営業利益率は8.4%で、前年同期比で0.4ポイント悪化した。

営業外損益は28億円の益で、前年同期比で27億円悪化した。為替差損益が改善したが、MMAやアクリロニトリル（以下、AN）を扱っているタイのPTT Asahi Chemical Company Limitedの業績が悪化したことなどから、持分法投資損益が54億円悪化した。

特別損益は141億円の損で、前年同期比で146億円悪化した。固定資産売却益が減少したことや、2020年10月に発生した旭化成エレクトロニクス（株）の半導体工場の火災に関連する損失を特別損失として116億円計上したことが主な要因だ。

税金等調整前四半期純利益は1,182億円で、前年同期比で280億円の減益となった。法人税等は365億円で、前年同期比で46億円減少した。

親会社株主に帰属する四半期純利益は800億円で、前年同期比で238億円の減益となった。

P9 連結貸借対照表

2020年3月末と12月末を比較すると、総資産が490億円増加した。のれんの償却が進み無形固定資産が減少したが、現金及び預金が増加したことに加え、国内の株価上昇により有価証券の時価評価額が増加した。

負債は183億円増加した。有利子負債が149億円増加したことが主な要因だ。

純資産は306億円増加した。約458億円の配当支払いにより減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を800億円計上したことや、株価の上昇等によるその他有価証券評価差額金の増加等があった。

D/Eレシオはグロスで0.52、ネットで0.34となった。

P10 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは1,754億円のキャッシュ・インとなった。税金等調整前四半期純利益1,182億円、減価償却費802億円が主なキャッシュ・イン項目だ。前年同期比では、税金等調整前四半期純利益が減少したが、棚卸資産の削減等により運転資本の効率化が進んだことから、キャッシュ・インが増加した。

投資活動によるキャッシュ・フローは1,047億円のキャッシュ・アウトとなった。設備投資を行っていることや、Sage Automotive Interiors, Inc. (以下、Sage) による米国Adient plcの事業譲受に伴う支出があった。

これらの結果、フリー・キャッシュ・フローは707億円のキャッシュ・インとなった。

現金及び現金同等物の期末残高は2,471億円となった。

P11 セグメント別売上高・営業利益増減内訳（4-12月比較）

第3四半期累計では、「マテリアル」において、上期における自動車関連市場と衣料関連市場の需要減退の影響が残り、数量差がマイナスとなった。また、石化製品市況の下落により売値差がマイナスとなったが、一方で営業利益の「その他差」では原燃料因のプラスとして影響している。ネットの交易条件としてはマイナスとなった。

第3四半期では、自動車関連市場と石化製品市況が改善しており、「マテリアル」の営業利益はほぼ前年同期並みまで回復している。

P3 2020年度通期業績予想の概要（1）

通期業績予想について説明する。通期では売上高2兆910億円、営業利益は1,600億円を計画している。各セグメントが好調に推移しており、2020年11月に発表した予想（以下、前回予想）と比べると、営業利益を200億円上方修正している。セグメント別では、「マテリアル」の140億円が最も大きく、「住宅」で25億円、「ヘルスケア」で55億円上方修正している。

第3四半期から第4四半期にかけて減益となる見通しだが、理由は2つある。1つは、第4四半期

は季節要因として不需要期であること、もう1つは来期以降に向けた先行投資の費用が積み上がってきていることである。事業の実態が悪化しているわけではない。

基盤マテリアル事業はANの交易条件の改善等を見込んでいるため、営業利益を34億円上方修正している。パフォーマンスプロダクツ事業も自動車市場等の回復を見込んでおり、41億円上方修正している。スペシャルティソリューション事業は工場火災の影響により困難と見ていた半導体の仕掛・製品在庫の販売が一部可能となったことや、セパレータ事業の堅調な推移を予想すること等により59億円上方修正している。

P4 2020年度通期業績予想の概要（2）

親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想から160億円下方修正しており、通期で710億円を計画している。要因の1つは、半導体工場の火災の影響を織り込んだことによる特別損失の増加、もう1つは税金費用の増加である。

2019年度に買収したVeloxisに関連した組織再編を決定し、組織構造の最適化を行っている。その過程でグループ内の資産譲渡への課税があり、現時点で250億円程度を見込んでいる。ただし再編に伴う清算プロセスの中で、2021年度にほぼ同額の法人税が軽減される見込みだ。

株主還元方針については、1株当たりの配当金は期末で17円、年間で34円と予想している。「安定配当且つ継続的な増配を目指す」方針、および通期業績を勘案して決定する方針に変更はない。

【質疑応答】

みずほ証券・山田氏 パフォーマンスプロダクツ事業では自動車関連が改善しているとのことだが、これは第3四半期の上方修正に効いているだけか、それとも第4四半期も堅調に続くと考えているのか。

また、スペシャルティソリューション事業に関して、リチウムイオン電池（LIB）用セパレータの伸びはどれくらいか、定量的に教えてほしい。

加えて半導体工場火災の影響について、特別損

失の計上の他に、不稼働資産に関連する費用の営業外損益項目もしくは特別損益項目への組み換え等もあるのか。

桑葉 第3四半期から第4四半期にかけて、自動車関連の需要は引き続き堅調な需要を見込んでいる。事業別では、消費財が減益になっている。季節性として第4四半期に需要が落ちることに加え、固定費の第3四半期から第4四半期へのずれ込み等があったためである。自動車向けのエンジニアリング樹脂や合成ゴムは、需要が堅調であり増益を見込んでいる。繊維はSage 関連を含め固定費のずれ等があり、減益になると見ている。

福田 LIB 用セパレータの販売数量は、上期は前年同期比で約3割増だったが、第3四半期では前年同期比で5割強の増加となった。第4四半期は前年同期比で5割弱の増加、下期トータルで前年同期比5割程度の増加を見込んでいる。

佐藤 半導体工場火災の影響については、不稼働期間中の製造固定費等の費用を特別損失に組み換えている。火災関連の特別損失として約116億円を第3四半期で計上しているが、その約1割に相当し、大きな金額ではない。

山田氏 金額が大きくないので、復旧したときに固定費が増加し、大きな減益要因になることはないということか。

佐藤 その通りだ。

山田氏 税金費用の増加に関しては、Veloxis の資本再編によって2020年度に課税が発生するが、2021年度に税金支払いが減少する要因があり、2020年度と2021年度で結果的に相殺されるということか。

佐藤 第3四半期に意思決定したグループ内再編によって様々な譲渡益課税が起これ、それをこの第4四半期に計上する予定である。ただし再編の過程で不要な会社を清算するプロセスで、2021年度にほぼ同額の法人税が軽減される見込みだ。

山田氏 (免疫抑制剤)「Envarsus XR」の米国での第3四半期累計売上高が94百万ドルというのは計画通りなのか。当初の成長率の見通しは3割

程度だったので、計画を上振れているのではないか。

木邊 COVID-19 影響下でも売上高は右肩上がりでも推移しており、当初の計画通りに順調に進んでいる。

モルガン・スタンレーMUFG 証券・渡部氏 クリティカルケア事業の営業利益が、第2四半期の約150億円から第3四半期に約120億円と減益になっているのはなぜか。また第4四半期に向けた人工呼吸器の動き等も教えてほしい。

柴田 減益は人工呼吸器の出荷タイミングの影響によるものだ。米国政府からの一括受注額は350百万ドルで、上期に約半分、残りを第3、第4四半期に計上する予定である。上期はほとんどが第2四半期に計上されたため、第3、第4四半期は減益となる。

渡部氏 人工呼吸器以外の製品の動きはあまり2019年度と変わらないか。

柴田 COVID-19 の影響により製品間で多少のばらつきはあるが、概ねその通りだ。

渡部氏 米国政府からの受注額は350百万ドル以上にはなっておらず、米国以外も含めてこれからも大きな需要は見込んでいないということか。

柴田 米国以外からの想定していなかった受注はこれまで多少あったが、世の中にワクチンも出てきており、当初の人工呼吸器の装置への需要は満たされ、今後は消耗品の売上高が少しずつ計上されていくものと考えている。

渡部氏 住宅事業について、不動産部門が利益を押し上げているが、2021年度はどうなるのか。建築請負事業の受注の状況が2021年1月に少し好転したように見えるがなぜか。

坂井 不動産部門は2020年度に物件が集中したため、2021年度はこのレベルには届かないと考えている。受注については、1月は全国で行ったオンラインイベントが盛況だったこと、大型物件の受注が取れたことで、受注額は前年同月を上回った。しかし緊急事態宣言によって、1月は展示場の集客が前年同月比で約4割落ちており、状況を

注視している。

SMBC 日興証券・宮本氏 スペシャルティソリューション事業について、第2四半期から第3四半期にかけての27億円の増益は、セパレータの好調によるものか。また、第3四半期から第4四半期にかけての40億円の減益は、半導体工場火災の影響や季節性によるものか。

杉山 スペシャルティソリューション事業全体としては、第2四半期から第3四半期にかけ、自動車関連製品の回復を中心に増収・増益であった。セパレータや電子材料系製品も引き続き堅調である。第3四半期から第4四半期にかけては、第4四半期に各製品が不需用期に入ることや、暦年での価格改定によりセパレータが若干減益になることなどを織り込んでいる。また電子部品は、第3四半期は火災影響が予想よりも軽微で済んだが、第4四半期には影響が出て減益となると見ている。

宮本氏 LIB用セパレータについて、第3四半期が前年同期比で5割強の販売数量増というのは非常に好調だと思うが、湿式、乾式、もしくは用途別での強弱感について、可能な範囲でご説明いただきたい。

福田 湿式は増設が寄与して、民生用途、車載用途ともに数量を伸ばした。また乾式は、2019年度に韓国ESS火災の影響があり販売数量が減少したが、そこから復調してきている。

宮本氏 Veloxisの「Envarsus XR」に関し、旭化成ファーマ(株)社長のインタビュー記事を拝見したが、かなり市場シェアも上がってきているように見える。Veloxisの第3四半期累計実績は、前年同期比でどれくらい増収しているか。

木邊 業績の詳しい数値については申し上げられないが、順調に伸びてきている。

宮本氏 例えば2019年秋の買収発表当時は、新規腎移植患者では20%程度のシェアという話があったが、直近ではどれくらいか。

木邊 直近では、3割程度である。

宮本氏 今後、米国以外の地域や、他の臓器移植への展開についての可能性はどうか。

木邊 適応拡大については、現在検討を進めているところである。

大和証券・梅林氏 LIB用乾式セパレータの数量増はESS用途の復調によるとのことだったが、乾式は車載向け需要も増えてきているのか。また、自動車市場の回復により、鉛蓄電池用セパレータも第3四半期あたりから需要が戻ってきているか。

福田 1回の充電あたりの航続距離が400~500kmというようなガソリン車代替となる電気自動車には、エネルギー密度の高いLIBが要求され、具体的には、三元系のニッケル比率の高い正極が使われる。そのような用途では、湿式の塗工膜が主流になってきている。

乾式セパレータについては、高出力が求められるハイブリッド自動車向けに使われる傾向があったが、最近では、中・低エネルギー密度の電池、LFP系の正極を使うような電池等の需要が新たに出てきている。

鉛蓄電池用セパレータについては、第2四半期から第3四半期にかけ自動車市場が回復したことに加え、特に第3四半期は北半球で冬季交換需要のピークにあたり、販売数量が好調であった。

梅林氏 最近では電気自動車も多様化し、短距離向けも増えてきているが、そのような用途では乾式の需要も増えてきているということか。

福田 ご理解の通りだ。

梅林氏 住宅事業について、第4四半期の営業利益が、建築請負部門の受注が厳しいとはいえ、通常の季節性を考えると低すぎるのではないか。やはり戸建ての引渡しが少ないのか。また、不動産部門については第3四半期まで好調に伸びてきたが、第4四半期だけ見ると失速している。このあたりを補足いただきたい。

坂井 第4四半期に減収となる要因の1つは、上期から第3四半期にかけ集中していた不動産部門の分譲マンション事業の引渡しが、第4四半期に少ないことが挙げられる。分譲マンション事業はかなり波があり、引渡しが集中した期には売上高が上がるが、平準化されているわけではない。

梅林氏 鉄の価格が上がってきている。住宅のコストアップの可能性はあるか。

坂井 一時、鉄の価格は下がってきていたが、このところ急速に上がっている。今後の状況によっては、影響を受ける可能性はあると考える。

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券・渡邊氏 半導体工場火災の特別損失について、2020年度はどのような項目が含まれていて、2021年度にどのような影響が残るのか。また復旧のタイミングについても解説してほしい。

佐藤 特別損失については基本的に2020年度に全て計上する予定で、第4四半期も少し追加で計上する見通しだ。2021年度以降には特別損失は計上しない前提で考えている。

渡邊氏 第4四半期にどのくらいの金額を想定しているのか。

佐藤 全社として特別損益は第3四半期累計で約140億円、第4四半期に火災損失等をさらに追加し、通期では約200億円を想定している。

渡邊氏 第3四半期で織り込めなかったのはどういうものか。

佐藤 撤去関連費用の引当金等がある。第三者の見積り等が必要だが、第4四半期に織り込めるように準備している。

渡邊氏 住宅事業の建築請負部門の受注について、第4四半期は前年同期比でマイナスの計画である中で、2021年1月は前年同月比でプラスとなった。1月はオンラインイベントが盛況だったということだが、これは1月単月だけなのか。2月以降も住宅受注の回復は継続するのか。

坂井 2021年1月は全国で行ったオンラインイベントが好評だったこと、2020年1月の住宅受注は消費増税等の影響で低かったこともあり、前年同期比プラスになった。2月以降もこの調子で推移していくことを期待しているが、緊急事態宣言によって1月の展示場の集客が落ち込んでいる。その影響がどうなるかを今検討している。

渡邊氏 オンラインイベントが奏功しているが、展示場集客からオンラインイベントに切り替えた

わけではなく、引き続き展示場に来てもらう必要があるということか。

坂井 その通りだ。1月はオンラインイベントが奏功したが、これが続けば受注は回復してくると考えている。一方で、当社の受注は展示場からの受注が大半を占めているので、今後の動きを注視している。

野村証券・岡嵯氏 基盤マテリアル事業について、第2四半期から第3四半期、第4四半期にかけての営業利益の変動と、ANの需給状況およびスプレッドの第3四半期実績、第4四半期予想を教えてください。

高橋 決算説明会資料35ページに四半期ごとの営業利益推移を記載しているが、第2四半期18億円、第3四半期41億円、第4四半期52億円と改善してきている。第2四半期は全般的に販売量が落ちていたが、第3四半期にはほぼ回復し、第4四半期は前年同期を上回っている状況だ。石化製品市況も全般的に上がってスプレッドが改善しており、環境は良くなってきている。

ANの需給はタイトな状況だ。ABS樹脂を中心に需要が好調であることに加え、供給面では競合他社の定期修理があったことや、欧米からのアジア市場への流入品がないこと等が要因となっている。スプレッドは前回予想では300~400ドル/トンと見ており、10-12月実績はプロピレンが932ドル/トン、ANが1,309ドル/トン、スプレッドが378ドル/トンと、徐々に上がってきたものの予想の範囲内であった。足元ではANは1,700ドル/トン程度となっており、1-3月は、旧正月等や不透明な要因はあるがANが1,650~1,700ドル/トン程度、プロピレンが950ドル/トン程度、スプレッドは700~750ドル/トン程度と見込んでいる。

岡嵯氏 2021年度もANの需給は比較的堅調という見通しか。

高橋 そのように見ている。需要は好調で、ABS樹脂も今のところ減産の気配は無い。供給に関しても、他社の新增設はしばらく無く、2021年末にあ

るかかどうかという状況だ。他社の定期修理が終わり供給が増える部分もあるが、需給のタイト感は2021年度上期程度までは続くのではないかと見ている。

岡崎氏 スペシャルティソリューション事業について伺いたい。先ほど第2四半期から第3四半期にかけての説明があったが、セパレータ事業の増益の影響はあまり大きくなかったのか。また、セパレータの電気自動車用途に関して、競争環境は3ヶ月前と変わりはないか。

杉山 スペシャルティソリューション事業は第2四半期から第3四半期は増収・増益で、セパレータ事業も大きく貢献している。先ほど自動車関連製品の回復が大きいと説明したが、その中には鉛蓄電池用セパレータも含む。また、LIB用セパレータも伸びている。

福田 セパレータ事業は、第2四半期から第3四半期にかけて増収・増益であった。LIB用セパレータでは、乾式のESS用途で顧客における他社膜採用品へのシフトなどがあったものの、湿式は民生・車載いずれの用途でも販売量を伸ばした。鉛蓄電池用セパレータも冬季の交換需要等で販売量を伸ばした。競争環境に関しては、特に大きな変化はない。

JP モルガン証券・佐野氏 スペシャルティソリューション事業に関して、半導体工場火災による第3四半期の営業利益への影響はどの程度だったか。また、第4四半期の見込みはどうか。

川田 第3四半期においては、火災の影響は軽微であった。半導体需要が回復する中で、一部の在庫が販売できることになったためだ。第4四半期は、在庫が無くなり生産停止の影響が出てくる。

佐野氏 セパレータに関して、当社の子会社である Polypore International と中国の SEMCORP Group が、それぞれの子会社によるジョイントベンチャー（以下、JV）を設立するという発表があったが、同JVのコスト競争力が高い乾式セパレータが市場に出てくると、当社の既存の乾式セパレータのシェアを奪われるのではないか。そのような

ことが起こっても、当社はJVの持分を49%有していることで、そこで利益が上がればよいということなのか。あるいは、品質レベルが違うので、シェアを奪われることはないという考えか。

福田 今回のJV設立の狙いは、今後2～3年で急速に形成される中国ESS市場という事業領域に迅速に参入し、より一層の事業拡大を図ることだ。この領域は非常に価格競争が激しく、乾式で、中・低密度のエネルギー容量の電池をターゲットとしていく。

佐野氏 中国のESS市場を狙うと言っても、JVの相手側は最終的にはグローバルトップの乾式セパレータメーカーを目指しているのではないか。JVが対象とする市場を完全に中国のESSだけに限るといった切り分けは可能なのか。

福田 現在は当局への申請中であり、認可を得てからJV設立となる。詳細に関してはその後に説明の機会を設けられればと考えている。

モルガン・スタンレーMUFJ証券・渡部氏 医薬・医療事業の営業利益が第2四半期から第3四半期にかけ大きく改善している。Veloxisの「Envarsus XR」の米国売上高は微増に留まっており、増益の要因について教えてほしい。また、第3四半期の前年同期比での増益についても説明をお願いしたい。

濱本 まず医療事業について説明する。第2四半期から第3四半期にかけては増収・増益となった。COVID-19の影響等で（ウイルス除去フィルター）「プラノバ」の販売数量が増加したことや、販管費が減少したこと等による。第3四半期は前年同期比でも増収・増益となっている。先ほどの説明と同様に「プラノバ」の販売数量増加や販管費減少等があったことに加え、「プラノバ」の生産量増加に伴い製造原価が低減したことも要因となっている。

木邊 医薬事業に関しても、第2四半期から第3四半期は増収・増益となった。（骨粗鬆症治療剤）「テリボン」や、（関節リウマチ治療剤）「ケブザラ」の増販に加え、季節性により固定費が減少し

たこと等による。第3四半期の前年同期比でも、増収・増益だ。増販に加え、COVID-19の影響で固定費が減少したこと等による。

濱本 以上で決算説明会を終了する。ご参加ありがとうございました。

[終了]